

2018年7月

犬・猫をはじめ、金魚に小鳥、爬虫類(イグアナ・蛇など)、蛙、昆虫まで。  
日本画・洋画・工芸・彫刻で表現する、ちいさきもの大集合!

# ちいさきものは みないとし

## ～現代コンパニオンアニマルズ～

- ・会 期:2018年8月1日(水)～7日(火)
- ・入場時間:午前10時30分～午後7時30分※最終日は午後4時閉場
- ・会 場:日本橋高島屋6階美術画廊



清水航「游」45.5×53.0cm



若宮隆志「笑う猫」3.9×4.0×3.9cm



富田菜摘「花丸」31.0×17.0×30.0cm

今や国内では、犬が892万頭、猫が953万頭飼育\*され、15歳未満の子供の人口を大幅に上回っているとのデータがあります。少子高齢化社会において、「コンパニオンアニマル」としての存在感が高まり、家族の一員であり、時には我が子同然、それ以上に愛情を注ぐ対象となっています。また犬・猫に限らず、愛玩の対象も多岐にわたっています。

これは、私たち日本人が古来から「ちいさきものはみないとし」として愛でる感性をもち続けている証でもあり、京都・高台寺に伝来する国宝「鳥獣人物戯画」ではユーモラスに、浮世絵では市井の人々とともに生きる動物たちの姿が描かれ、近現代の日本の画家も愛玩の対象をモチーフに名画を数多く残してきました。

の姿が描かれ、近現代の日本の画家も愛玩の対象をモチーフに名画を数多く残してきました。

\*「一般社団法人ペットフード協会」(東京都)2017年12月発表



大沼 蘭「wonder woods」53.0×45.5cm



山本真澄「空に舞うもの」31.8×41.0cm



田中英生「間 めろはに真珠」45.5×45.5cm

本展では、こうした「ちいさきものはみないとし」という観点にたち、日本画・洋画・工芸・彫刻の多ジャンルにわたり、大人から子供まで楽しめるものとして、さまざまな動物が“生きいき”と表現された作品群、とりわけ動物の生態、飼育者と関わりあう情景や、擬人化されたユーモアなども取り混ぜ、一堂に展覧いたします。

◆出品作家:(敬称略)

〈日本画〉 磯部光太郎、及川聡子、大塚怜美、清水 航、菅原さちよ、田島周吾、田中 武、田中裕子、野地美樹子、松岡 歩、松崎和実、松谷千夏子、安岡亜蘭、山本真澄、依田万実

〈洋 画〉 安達博文、大谷郁代、大沼 蘭、肥沼 守、齋藤 将、田中英生、中尾直貴

〈工 芸〉 小野里三昧、瀧川佐智子、寺戸松香、福山恒山、森 哲郎、若宮隆志

〈彫刻・立体〉 下山直紀、齋藤秀樹、高橋野枝、富田菜摘

【お問合せ】 日本橋高島屋 TEL(03)3211-4111(代表)